

東北地域における2003-2013年の イネの害虫カメムシ類の発生傾向

《はじめに》

イネを食べる害虫カメムシ類は、玄米に斑点米（写真1）と呼ばれる黒っぽい汚れを作ります。この斑点米が1,000粒に2粒以上あるとコメの等級が下がり、買い取り価格が安くなってしまったため、農家の人たちにとって大きな問題です。



写真1 / カメムシ類による斑点米被害。カメムシがイネを加害した跡が黒く変色する

東北地方においてイネを加害するカメムシは地域によって異なり、太平洋側ではアスジカスミカメ（写

真2左）が、日本海側ではアカヒゲホソミドリカスミカメ（写真2右）が主な種類であるとされていました。しかし、2000年代の中頃から日本海側地域でもアスジカスミカメが多く場所で捕獲されるようになってきました。カメムシの種類が異なれば防除対策も異なるので、主要種の変化を把握することは非常に重要です。そこで私たちは、アスジカスミカメ発生地が拡大する前後に東北各県の病害虫防除所で集めたデータを取りまとめ、発生地の拡大状況や被害状況などに関する分析を行いました。



アスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ

写真2 / 東北地域のイネを加害するカメムシ

《アスジカスミカメの増加について》

各県にある病害虫防除所は県内の決まった調査水田でカメムシ類をはじめ主な害虫の発生状況を調査しています。青森・秋田・山形・福島各県では、これらの調査地点にお

生産環境研究領域

田 淵 研

TABUCHI, Ken

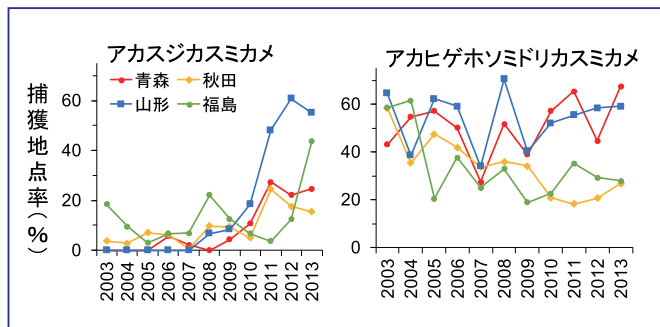


図 / アスジカスミカメ増加地域（東北4県）におけるアスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの捕獲地点率の推移（2003～2013年）。捕獲地点率は各県の病害虫防除所による水稲巡回調査（7月下旬）の結果を示す。

る捕獲率が2008年以降に増加傾向でした（図左）。その一方で、アカヒゲホソミドリカスミカメは、秋田県では減少傾向であり他の3県では増加や減少傾向が認められませんでした（図右）。このため、既に2種が一緒に発生している岩手・宮城両県を含めた東北地域全体において、広い地域で2種の混発が進行していると推定されました。これら2種のカメムシは好きな植物や水田への侵入時期など、その特性が異なります。カメムシに対する農薬の選択や防除時期、水田内外の除草時期の再検討が、今後のカメムシ対策における技術的課題として重要です。

以上に加えてカメムシ類の発生について、東北地域の県ごとの発生調査結果、被害とその特徴、防除対策、および研究事例を整理しました。その分析に基づく今後の課題については資料として取りまとめ、東北農業研究センターのウェブサイトにて公開しています。

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/tarc/report/057034.html